

ライティングセンター運営支援システムの設計と運用

毛利美穂¹ 小林至道¹ 稲葉利江子² 長畑俊朗¹ 森田弘一¹ 森村淳³ 西浦真喜子¹ 本村康哲¹

¹関西大学 ²津田塾大学 ³株式会社システムサポート

mohri@kansai-u.ac.jp

背景&目的

- ・ 関西大学と津田塾大学は、＜考え、表現し、発信する力＞を培うライティング／キャリア支援を目的としたライティングセンターを核とした支援体制の構築にあたり、センター包括的支援システム“TEC-book”を協同で開発
- ・ 関西大学で開発・運用していたシステムをベースに、ユーザ中心設計に基づき、システム設計を行った

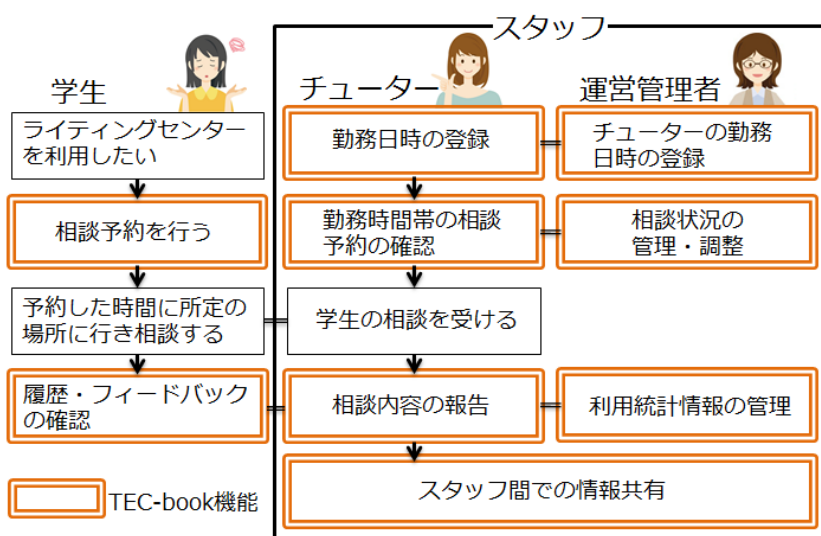
日本のライティングセンターの運営の現状と課題

運営タスク	現状	課題
チューター配置	Excelで管理	運営管理者の負担が大きい
予約管理	用紙・メール・代替予約システムで受付	オーバーブッキングの可能性が生じる
指導履歴の蓄積と共有	紙ベース	チューター間での共有がリアルタイムでできないために、指導に一貫性が担保できない
運営統計	Excelで管理	リアルタイムでの詳細な分析に対応できない
施設展開	限られたスペースで運営	複数キャンパスがある場合は、複数のセンター展開に対応できない

これらの課題に対して、“TEC-book”はシステム化による解決を目指す

TEC-bookの特長

ステイクホルダーの行動とTEC-book運用の流れ



- ① 相談対象者
・ 複数学部に対応
- ② 相談対応場所
・ 複数ヶ所に対応
- ③ 学生による予約と履歴閲覧
・ 学事情報との連携により、予約情報と履歴閲覧が可能
- ④ チューターによる履歴の共有
・ 学生単位、チューター単位、科目単位で表示可能
- ⑤ 駆け込み対応
・ 事前予約ができなかった学生の情報もシステム上に履歴を残すことが可能
- ⑥ 利用統計
・ 任意の期間において、相談場所ごとにシフト単位で稼働率(相談件数/チューター数)の一覧が可能

画面例

学生：予約画面

シフト管理

チューター

履歴閲覧

管理者：利用統計画面

まとめ&今後の予定

- ・ 関西大学ライティングラボではH27年度春学期より導入し、津田塾大学ライティングセンターでは秋学期より導入を予定
- ・ 関西大学・津田塾大学という、文章の種類、チューターの管理、予約方法など、設置状況・背景が異なるセンターでの運用をとおして、繰り返し改善を行いながらシステム開発を進める
- ・ システムの多言語化を目標とする
- ・ **H28年度以降、オープンソース化を行い、他大学での普及・利用を展開する予定**